

滄水会ニュース

第13号

平成11年10月1日

滄水会

職業能力開発総合大学校 同窓会

〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台4-1-1

FAX 0427-63-9267

振り返って

会長 尾身 嘉一



早いもので、滄水会会長という重責を拝命しましてから6年になります。2期、無事終了し、いよいよこの10月の総会で退任ということになりました。皆様のご協力、本当にありがとうございました。

今回の滄水会ニュースが、私たちのもとで発行される最後となりますので、ざっとこれまでを振り返り、ご報告しておきたいと思います。就任時に考えましたのは、何と言っても5000名に近い同窓生を“利益集団”にできないものだろうか、ということでした。言葉はちょっと適切ではないかも知れませんが、要は単なる“同窓生”ではなく、それぞれが情報交換し、ビジネスに結びつけられるような組織にしたいという発想です。その背景には、民間企業への就職が増加したことがあります。雇用・能力開発機構の中であれば、それなりのパイプもあり簡単に情報収集も可能でしょうが、民間に入りますと個人の間関

一貫して、関係構築を重視し、ネットワークを強化し、互いに支え合える関係性を築いていくことが、同窓会にとって最も重要な役割であると考えています。このスタンスにたって考えつくことは全て試みました。中には実現できなかったものもありますが、総合で80点の合格点はつけられるのでは、というのが正直な感想です。

関係のみとなり、誰が何処で、どんな立場で仕事をしているのかは全くと言ってもいいほどわかりません。「目的を明確に持った大学校で4年間も学んだ同窓生ですから、もっとお互いにも有効活用し合い、現世の利益を追求しても良いのではないか」というのが会長就任時の原点だったように思います。このスタンスにたって考えつくことは全て試みました。中には実現できなかったものもありますが、総合で80点の合格点はつけられるのでは、というのが正直な感想です。

①事業団、大学校とのパイプラインの強化

同窓会が独り相撲をしていてもしょうがありません。事業団、大学校があつての同窓会です。そこで、理事長、校長とは定期的に懇談会を設けさせていただき、私たちの活動内容を報告すると同時に、サポートもお願いしました。事業団、大学校とも

急速に身近な関係になり、時には理事長からダイレクトに電話がかかってくることもありました。大学校の早川校長とも何回となく懇談し、次に掲げる「滄水会賞」の設立など、多くのサポートをしていただきました。

②「滄水会賞」の設立

「優秀な大学校生に卒業時点で同窓会から賞をあげよう。そうすれば、大学校生の間でも話題になり励みになるのではないか。」と考え、毎年1回、長期課程の各科から1名、「滄水会賞」を授与しております。このための立派な賞状、メダルも大学校の先生の力を借りて作りました。

③滄水会会員名簿の発刊

名簿は以前からありましたが、それを大幅に改変し利益の出るシステムを導入し発刊しました。あえて広告も掲載し、印刷所も変更しました。それに、同窓生が使いやすいようにと、肩

書きを付け加えました。肩書きがなければビジネスでは使いにくいと考えたからです。

④30周年記念事業

前述しました滄水会名簿もこの一環として発刊しましたが、他に滄水会基金を創設したり、記念品の贈呈なども実施しました。

⑤相模原版の校歌、寮歌作成とCD製作

小平市小川町時代からの校歌と寮歌を相模原版に変えました。同時にCDも製作しました。

以上、主なものを列記しました。他にもいろいろとありますが、いずれも同窓会の将来を考え、我々同窓生が社会を生きていく上でプラスになるような視点で活動を続けてきた次第です。新体制になりますが、今後ともよろしくご協力をお願いいたします。本当にありがとうございました。

新学生歌と寮歌のCDを製作

滄水会ニュース第12号（平成10年11月10日発行）でご紹介しましたように、滄水会では学生歌と寮歌を相模原版にリニューアルしましたが、より親しみやすくするために、デジタルオーディオテープへの収録とCDの製作が行われました。

平成11年3月東京渋谷区道玄坂のBunkamuraスタジオにおいて、野田智子先生による演奏、歌唱指導及びデジタルソースの収録が行われ、マスターテープとCDの作成を行いました。現在では、まだCDのプレスを行っていませんので会員の方にお譲りできる体制は整っていませんが、カセットテープ等の借用を希望の方は、事務局までご相談下さい。



和やかな雰囲気の中で収録（中央 野田智子先生）

第4回滄水会賞授与式

平成10年度滄水会受賞者に対する授与式が、3月24日に職業能力開発総合大学校多目的実習棟ホールにて挙行されました。

各科の推薦によって選出された長期課程4年生の学生を3月12日の審査会において厳密に審査した結果、表のような方々が受賞されました。会長は、受賞者に一人ずつ賞状と記念メダルを贈り、卒業生に対して祝辞を述べました。

また、授与式に続いて開催されたパーティーでは、卒業生、

在校生、OB、能開大職員の見守り中、滄水会の二斗樽を囲んで、鏡割りが盛大に行われました。

滄水会賞も4回目を迎え、学生の中に定着してきた感があります。一歩ずつ努力してきた学生への賛美を形にする場として貴重な賞になっています。

第4回滄水会受賞者は以下の通りです。

（以下、受賞者の名前と所属が記載されていますが、画像の解像度が低いため、具体的な内容は読み取れません。）



滄水会賞を授与される藤野喜久子さん（電気工学科）

第4回滄水会賞受賞者

高橋 毅	産業機械工学科
榊原 充	生産機械工学科
藤野 喜久子	電気工学科
内野 伸一	電子工学科
堀田 小百合	情報工学科
龍澤 絵里子	建築工学科
澤口 亮	造形工学科
柴田 英介	福祉工学科

能力開発をリードする拠点施設として機能充実を図る —高度な物づくりを担う人材の育成を目指して—

職業能力開発総合大学校 副校長 池田 伊佐雄



わが国は、近年、消費の低迷や高コスト構造の是正等構造改革が進展する中で中高年齢層を中心に完全失業率が過去最高水準で推移するなどかつてない厳しい雇用失業情勢が続いています。また、中長期的には、少子高齢化が一段と進展するとともに、経済活動がグローバル化し国際間の企業競争が一段と進むなかで情報化や規制緩和を背景に新たな市場が創造されるなど産業・就業構造の変化が進んでいます。また、価値観の変化等とともに就業ニーズが多様化する一方、企業の雇用管理のあり方についても、雇用の流動化に対応した動きが見られるところ

です。こうした変化のなかで、21世紀に向けてわが国が安定した成長を遂げ、雇用の安定を図るためには、職業訓練を通じ労働者個人個人のエンプロイアビリティの向上を図り、事業の新分野展開や製品の高付加価値化に対応しうる高度で多様な職業能力を有する人材を育成することが一段と重要になっています。

本校は、このように時代が大きく変化するなかで、この4月、東京職業能力開発短期大学校と統合して職業能力開発総合大学校として再スタートしました。総合大学校では、職業訓練指導員の養成および職業能力の開発・向上に関する調査・研究に加え、新たに設けられた応用課程などの高度職業訓練を総合的かつ一体的に実施し、全国の職業能力開発施設の中核施設として、時代のニーズに即し、新大学校のモデルとなる先導的な高度職業訓練の開発・実施や職業能力に関する研究とその成果などの

情報発信、提供等の業務を総合的に行うこととしています。具体的には、指導員養成について応用研究課程を新設し、新能開大の応用課程における教育訓練に直結する実践的な製品製作課題の開発研究を行うとともに応用課程を適切に指導できる指導員の養成を図ることとしました。長期課程については、複合要素からなる製品等の製作を内容とする課題製作実習の導入などを、また研究課程については、専攻実技高度化実習、東京校との連携による実務実習の実施などを行い、実践的な「ものづくり能力」の付与のためにカリキュラムの見直しを図りました。

研修研究センターについては、職業能力開発研究センターへの改組を行い、訓練技法、教材等の開発改良を積極的に行い、その成果を全国の職業能力開発施設に発信すべく調査研究機能および情報発信機能の充実を図ることとしています。さらに、東京校においては、専門課程を修了した方や在職労働者などを対象に2年間の教育訓練を行う応用課程を実施します。この応用課程では、生産工程の構築、合理化や製品開発にも深く関与できる専門的かつ応用的な知識・実技を持つなど多様な職業能力を身につけた生産現場等のリーダーとしての素地の養成を行います。また、在職労働者を対象に応用課程レベルの短期間の高度職業訓練として、応用短期課程を実施します。これは様々な分野の技能・技術を融合した「ものづくり能力」を学ばせ、想像力・応力に富んだ実践的技術者の養成を図るも

のです。

時代のニーズにあわせた制度改革、仕組みは整備されました。これからの実践の中でその成果を上げるべく教員、職員一体となつての努力が求められています。

最後に、本校の設置・運営主体である雇用促進事業団は、行政改革の一環として整理合理化される特殊法人の一つとして廃

止され、この10月に雇用・能力開発機構として新たに出発いたしました。新たに設立された機構は、産業構造の転換や現下の厳しい雇用失業情勢に対応して特に必要とされる業務に重点化することにより、機動的、効率的な雇用対策の実施を可能とする法人として出発するものです。会員の皆様には、今後とも、新機構、総合大学の運営にご理解とご支援をお願いします。

近況報告

日立エンジニアリング株式会社 東京本社営業本部

システム営業部 部長代理 唐子純一



平成11年上期期末の9月の忙しい(?)さなか、突然の某氏の依頼により、断りきれずにこの原稿をしたためております。何を書こうか考えた末、卒業後の自分を振り返ってみることにしました。昭和52年度(53年3月)電子科を卒業し、現会社に勤め早や20年が過ぎました。会社名に日立がつくことからお分かりのように、弊社は、日立製作所の100%子会社であり、発電プラントをはじめとする電力分野のエンジニアリングや、コンピュータソフトウェアと制御技術を中心に各種産業分野での監視・制御システムの提供や、さまざまな情報システムの開発・設計を行なっております。

私の職務は、産業分野における制御・情報管理システムの営業活動に従事しており、特に最近はやりの、SCM(サプライ・チェーン・マネジメント)におけるロジスティクス分野へのコンピュータ情報システムの拡販活動を行なっております。

入社当時は、電力会社におけるダム制御所の監視制御システムのソフトウェア構築に従事しました。元々ソフト製作に自分の体質が向いていたのか、仕事自体はあまり苦にならなかったように記憶しています。ただ、当時は、プログラム設計者とコーダの業務が分かれており、コーダの作るプログラムが気に入らなく、よく喧嘩していたことを思い出します。

4年後に茨城の日立から東京に勤務先が変わり、日立製作所に常駐する形で、日立の名刺で約12年程、製造分野の工場設備制御監視システムや、自動倉庫制御をはじめとする物流システム

ムのプレSEに携わりました。この間、他社との競合の中、幾多の受注、失注を重ね、プレ活動の難しさを経験させて戴きました。この当時、一番印象に残っているのは、ちょっと大袈裟かもしれませんが、日立の子会社の人間でありながら、日立のインフラを支えて仕事をしてきたと自負していたことです。

現在は、プレSEのみから、技術的にもサポートできる営業として、ある時は管理者、ある時は担当と、数値との戦いに日々あたふたしております。

設計・SE時代は、気に食わないことには、顧客であろうが、社内であろうが、首を縦に振りませんでした。どちらかと言うとサラリーマンではなく、それが自分の性格に合っていたのかもしれませんが、今は、営業として、いかに顧客から信頼を勝ち得るか、いかにファミリーを作るか、そして、我々を支えてくれている設計者、製造者にどれだけ貢献できるかを日々の課題としております。注文は、とるものではなく、頂くもの、この精神で日々苦勞しております。

入社20年、本来なら、リフレッシュ休暇でどこか海外へ行きたいのを我慢して、休日出勤している私です。もし、こんな私に愛の手を差し延べて頂ける諸先輩がいらっしゃいましたら、ご一報下さい。

最後に一言、相模原に移ってからの初の入学者が、ちょうど私達にあたることもあるのでしょうか、「訓大」と言う響きがとても懐かしく、私は好きです。

卒業してから現在までの出来事

青山善宣



その1—技術者編

22歳、職業訓練大学校運輸装置科卒業後、技術系の会社（主に技術者の派遣）に入社。当時はバブル景気の頃で難無く入社となる。選考理由は、

- ①大企業よりは成長段階の企業のほうが良いと思った（色々な面で）。
- ②必ず設計の仕事ができる（大企業に行くと、どこに配属されるかわからない）。
- ③渡り歩く途中で（派遣先）実績を残し、気に入った会社の中途入社しようと思った。

今、思うと

- ①東証2部→1部へ成長した。
- ②4年間設計の仕事に従事した。
- ③一応1社目で取引先より声がかかった（が気に入らなかった）。

と、言うわけで当初の浅はかな読みは、いい線はいていたと思う（自己満足）。

とりえず某自動車部品メーカーへ配属となり、駆動部品の設計をやることになった。とは言うものの、私はその社員ではないため、誰も教えてくれるわけでもなく、卒業したばかりで大して仕事ができるはずもなく、皆様の態度はすこぶる冷たかったと言うか、今考えると相手にされていなかったみたい。仕事を頼まれたと思ったら「青山君、これロータスでまとめてね。明日中ね。」だって。その頃私は、まだパソコンはBasicしか知らず、とてもウブだった。ロータスって何？その日の帰り、本屋に寄ってロータスの解説書を買って一夜漬けでがんばったのであった。しかし、まだ皆様の信用を得ることは難しく、社内でも営業するハメとなった。入社すると誰でもいいから「仕事下さい。」とまわって歩いたのだ。（ウウ、カワイソー）

25歳、私はもう社外の身でありながら、一番重要な高級車担当の地位を得ていた（エヘン）。デスクも一番前、なぜかその会社は身分が高いと前に行くようになっていた。ちなみに誘われて断ったら一番後ろにされてしまった（くそつたれ）。パソコンの方も身銭を出して買って特訓したおかげで、トラブル時はみんな私に聞きに来るようになった（えへへ）。隣にいた

SEの目が少し冷たかったような気がする（SEさんはUNIXは得意だが、DOSのようなおもちゃは苦手らしい）。仕事も順調、しかも仕事ができだすと同時にまわりのおねーちゃんにももてるようになった（と今でも思っている）。オー、オレはもしかしてゼッコーチョー（イエー）、私は調子に乗ったついでにヒゲをはやすことになるが、ある日ふとしたことがきっかけで辞表をだし、テントを背負って旅を繰り返すことになった。（本当は仕事に飽きたからであった）

その2—百姓編

27歳、私は朝4：00長野県八ヶ岳麓のレタス畑で肉体労働に従事していた。

- 4：00から7：00までレタスを切り、トラックに積みこむ。
- 7：00おばーちゃんが作ってくれた朝食をかきこむ（レタスは1個食べる）。
- 17：00まで積みこみ農協へ出荷、昼飯を食べ、昼寝をする。
- 17：00まで苗植え、18：00まで明日の準備で1日の仕事は終了。

飯食ってビール飲んで（めちゃくちゃ美味）寝る、の繰り返し、休みはない、娯楽もない。ないないづくし、あるのは、自然、自然、自然そして村の人々、必要最低限の暮らし、質素だが貧しいわけではなく、心が満たされる日々。私は体を酷使し、体と頭の贅肉をそぎ落とし、世の中の雑事とはほとんど無関係であった。（ああ幸せ）

それから夏はレタス畑で働いて、冬は東京でバイトという2重生活を楽しんだ。実は都市と田舎の文化比較論を書こうと思った。（ウソタヨー）

その3—北海道Uターン編

29歳、私は何故かアラスカの大地に立っていた。私は故郷北海道留萌の水産加工会社にお世話になっていた。（職安に行き5件目で決まった）そこで、にしんを買う為にアラスカへ派遣されたのであった。（だけど入社して1年も経っていないのにいーかげんだよな）

千歳—成田—シスコ—ポートランド—アンカレジ—キーナイと飛行機を乗りつづけ、「迎えがいなかったら、どこどこの会社まで勝手にいって下さい」と某商社に言われ、ひどいなーと思っていたら本当に来ないでやんの。

しかしアラスカは刺激度120%であった。1000年も前から変わらない風景。キングサーモンが遡上する川、ダブルベッドサイズのオヒョウが獲れる豊穡な海、ゴミ箱にはブラウンベア(グリズリー)がエサをあさりにやってくる。はっきりいって豊かな土地であった。

食べ物も美味しかった。カッパーリバーの紅鮭、グイダック(貝)、オヒョウのほっぺた。ミル貝、銀たら、かずのこは獲れたて、毎晩酒は美味しかったが、私は童顔なので酒を買うのも、裸の踊り子を観るのもパスポートがあるので玉に傷であった。

出会った人々も楽しかった。1人はベトナム系の人間で、戦争を逃れ東京の大学に留学し、その後カナダに渡り、家族をカナダに呼び寄せたという経歴の持ち主。4か国語を話すというけっこーな人物であった。1人はカナダ国籍で9か月某日本商

社の仕事をし、3か月はまとめてオフ。アパートが安いからタイに居ますだって。「タイにこの間、3日間滞在しました」と言ったら笑われちゃった。「コレダカラニホンジンハ」という目つきだった。

32歳、夏、私は北海道の初夏の風を感じながら沢を歩いている。今日はあそこの淵を覗いてみよう。まだまだ日本も捨てたものではなかった。ここの川は禁猟になっていて、天然のやまめちゃんといわなちゃんがわんさか拝見できるのである。イワナなんか悠に50センチはある。釣り人が来ないため、スレていず私の前で悠々と泳いでいるのであった。

天然のやまめを釣るという私の念願は叶わないが(禁猟だからね)私はしばらくその勇姿に見とれていたのであった。

滄水会総会開催10月30日(土)

来る10月30日(土)に、滄水会総会が開催されます。会員の皆様のご参加をよろしくお願いたします。

すでに、会員の皆様には往復葉書でご案内を郵送させていただいております。総会への出席が困難な方は、委任状を返送していただきますようお願いいたします。

滄水会総会 日時 10月30日(土) 14:00~15:00

講演会 日時 同 15:00~16:00

講師 小川 是先生 東京大学客員教授

(元:大蔵事務次官)

演題 資源有限、人間無限

懇親会 日時 同 16:00~18:00

場所 東海大学校友会館 TEL03-3581-0121

千代田区霞ヶ関3-2-5 霞ヶ関ビル33階

最寄り駅 地下鉄丸の内線霞ヶ関、千代田線霞ヶ関

日比谷線霞ヶ関、銀座線虎ノ門

会費 10,000円(総会、講演会、懇親会の費用含む)

滄水会維持寄付のお願い

滄水会の活動は、会員の皆様の入会費と寄付金によって支えられております。滄水会では、会員資格20年ごとに滄水会維持発展のために維持寄付をお願いすることにしております。20年目の節目に、是非、滄水会を盛り上げていただきたく、お願い申し上げます。

本年度の維持寄付依頼対象の方の卒業年は1979年(15回卒業)

です、次の要領で払い込み下さい。該当される方には、振り込み用紙を同封させていただいております。

維持寄付金額:一口5,000円(何口でも結構です)

(維持寄付金払い込み方法:同封の振替用紙をご利用の上、最寄りの郵便局からお振り込み下さい。)

住所不明者と住所変更連絡について

本年度も下半期を迎え、人事異動も行われていることかと思っております。勤務先や住所を変更された方は、滄水会事務局までご連絡頂けますようお願い申し上げます。

滄水会事務局では24時間FAXを受信することができます。変更のある方は、住所変更連絡表に変更内容を記入の上、事務

局までFAXまたは郵送にてご連絡下さい。なお、住所変更通知FAX用紙や連絡はがきは、1998年版滄水会名簿の巻末に綴じ込んでありますが、お持ちでない場合は、お送りしますので滄水会事務局までご請求下さい。

連絡先 滄水会事務局 FAX0427-63-9267